



平成28年9月29日

**広島大学国際協力研究科が関与した JICA ザンビア教育支援の成果が
国内外で高い評価を得ました！**

- 2005年から約10年間に渡り、ザンビア教育省、JICAが実施し、広島大学国際協力研究科(IDEC)が支援している「授業研究」(日本由来のもので、教師が互いに学びあい、授業の質を向上させる取り組み)は、ザンビア全国10州(全初中等学校教員の46.1%)に展開し、国家試験合格率の向上に一定の成果が表れていることが明らかとなっています。

- このザンビア授業研究支援は米国ブルッキングス研究所や OECD など国際的な機関からも高い評価を得ています。(ウェブサイト参照)。

【参考】

米国ブルッキングス研究所の Millions Learning の最終 10 事例として掲載

<https://www.brookings.edu/research/millions-learning-case-studies/>

OECD の DAC 賞の最終 10 ファイナリストになる

<http://www.oecd.org/dac/dacprize.htm>

広島大学国際協力研究科でのザンビア支援の紹介

http://hiroshima-u.jp/idec/education/special_program/zamproba/jica

- IDEC は 2002 年のザンビア特別教育プログラム(青年海外協力隊員派遣+修士号の取得)の開始以降、授業研究、カリキュラム改訂支援に至るまで、強力なパートナーとしてザンビアを支援しています。本学で修士号を取得したベンソン・バンダ氏はザンビア国立科学センター所長として授業研究の取り組みを牽引し、活躍しています。

- 今年1月よりザンビア教育省と JICA が教員養成課程に授業研究を導入するプロジェクトを開始しました。9月20日からプロジェクトを牽引するザンビア教育省幹部(上記バンダ氏含む)が JICA 研修員として来日し、広島での研修を受講しています。

つきましては、研修成果のまとめと今後の活動計画の発表を予定しておりますので、ご案内申し上げます。なお、発表終了後、ザンビア支援に長年関わってきた IDEC 馬場研究科長とザンビア人研修員へのインタビューも可能ですので、ぜひご検討ください(通訳は当方で対応可能)。

日時：10月3日(月) 9:30~12:00

場所：広島大学国際協力研究科 207 講義室

使用言語：英語

【お問い合わせ先】

広島大学国際協力研究科 特任准教授 澁谷和朗

Tel: 082-424-6922

E-mail: kshibuya@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 4枚(本票含む)

JICAザンビア教育支援における広島大学IDECの役割と貢献

- 大学の使命である研究、教育、社会貢献をリンクさせた、持続的な取り組みを長期的に支援
- ザンビア政府からの厚い信頼を受け、学校現場から国のカリキュラム改訂までの幅広い支援を展開

【JICAによるザンビア教育セクター支援の展開と広島IDECの関わり(赤字がIDEC関連部分)】



【JICAによる授業研究支援の成果】

- 質の高い成果: 授業研究実施州の2009年国家試験合格率(理科)は62.6%。未実施州は50.3%であり、その差は統計的に有意(2010)。さらに授業研究実施の度合いと国家試験合格率との間に相関有との結果が判明(2015)。(出典: 2010年及び2015年のインパクトアセスメント報告書)
- 全国展開: 2005年開始時点で1州から2015年12月時点で全国10州まで展開。ザンビアの初中等学校3,322校(全体の34.8%)で合計46,462人(全体の46.1%)の教師が授業研究実施・継続。(出典: プロジェクト事業完了報告書(英文))
- 授業研究支援の政策実施能力の構築: 各州での授業研究実施の仕組みの構築、授業研究のための参考資料の作成、中央・地方のコア人材育成
- グローバルな認知: 2014年及び2015年の世界授業研究大会での発表。2016年にOECD DAC賞ファイナリスト入賞、米国ブルッキングス研究所Millions Learning Report最終14事例に掲載。



Photo: Atsushi Shibuya/JICA

先生たちが一緒に授業を計画します



Photo: Millions Learning web site

米国ブルッキングス研究所セミナーでザンビア授業研究が紹介

【広島大学IDECの取り組み】

●きっかけは2002年開始のザンビア特別教育プログラム。青年海外協力隊として派遣されながら修士号を取得するプログラムの草分け的な存在。ザンビア大学と連携し、関係者の研究発表の場を創出し、ザンビア教育セクターでの現場の改善と研究の蓄積に貢献。同時にJICAの授業研究支援プロジェクトと連携し、教員職能開発ジャーナルの投稿にも参加。

●JICAによる授業研究支援において、ザンビア教育省のコア人材育成を継続的に支援し、教材研究の実践強化に貢献。さらに2010年にザンビア初等中等学校理数科カリキュラムの改訂に関するJICA国別研修を支援。この研修がその後の2013年の初中等教育カリキュラム改訂につながる。池田教授、馬場教授が現地に派遣され、理数科部分の改訂作業に貢献。これまでの実績に基づいたザンビア側から広大IDECへの厚い信頼があり、国家の教育制度の根幹であるカリキュラムへの支援要請がJICAを通じなされた。

●2014年及び2015年の世界授業研究大会でのJICAセッションでの論文作成、共同発表などを通じ、ザンビア教育省スタッフの能力強化に貢献。グローバルな舞台で実践と研究成果を発信。



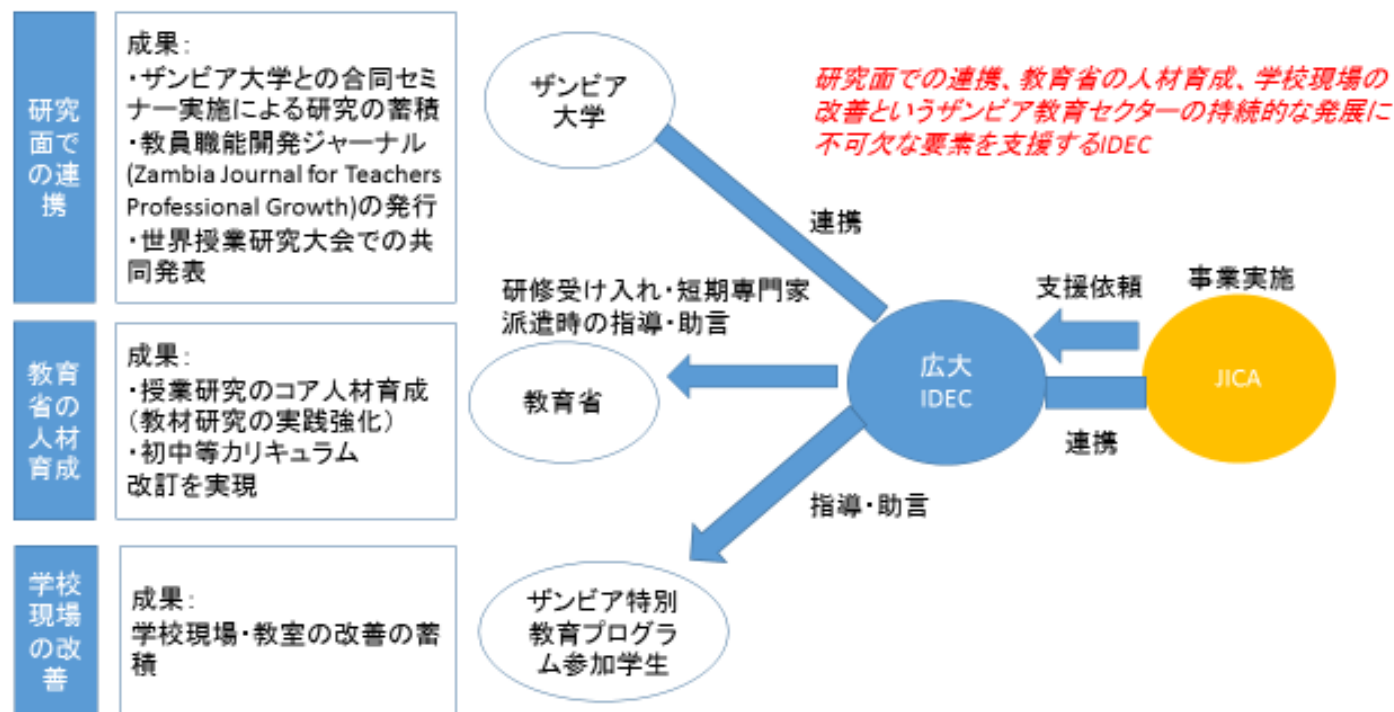
ザンビア大学セミナーでの清水教授と協力隊員



カリキュラム改訂ワークショップで協議をする

池田教授、馬場教授とザンビア教育省関係者

【JICAによるザンビア教育セクター支援における広島大学IDECの位置づけ・役割】



【馬場研究科長より一言】

「目の前にある問題に捉われるのではなく、10年後のことを考えて取り組むよう」と、ザンビア教育省関係者に常に伝えてきました。ザンビアが持続的に教育改善に取り組めるよう、研究を通じた人材育成の種をまいてきました。ザンビア特別教育プログラムの卒業生も研究者、実務者として活躍しています。ようやく小さな芽が随所に出てきていると感じられ、今後の成長が楽しみです。

Dissemination Seminar “Prospective of Zambia’s IPeCK Project that links pre-service and in-service training



Photo: Atsushi Shibuya/JICA

Date/Time October 3rd ,2016 9:30-12:00

Speaker Zambian delegation for JICA’s Knowledge Co-Creation Program (Country Focus)

Based on 10 years efforts and trials of lesson study in Zambia, the government of Zambia has started the IPeCK Project that links pre-service and in-service education since January 2016. The first batch of the Zambian delegation came to Hiroshima to learn how the collaboration between university and its attached school is organized in Japan and consider how Zambia can proceed it further. Please join the seminar!

Venue IDEC Room 207

Contact

kshibuya@hiroshima-u.ac.jp